

大航海時代の最高責任者の手で書かれたリアルタイムの記録

スペイン植民地史を考察するうえで豊富な素材を提供する史料

椎名浩

エルナン・コルテス 著
伊藤昌輝 訳

▶コルテス報告書簡
11・25刊 A5判584頁 本体7400円
法政大学出版局

産業近
豊富な
列島各地の代
新庄孝幸

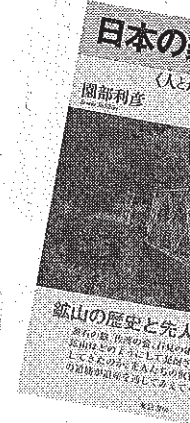


メキシコ(アステカ王国)の征服者エルナン・コルテス(1485-1547)といえは、ペルー(インカ帝国)征服のフランシスコ・ピサロ(1471-1541)とならび、16世紀スペインの新たな大陸征服に挺身した「コンキスタドル」の代表格であり、いわゆる大航海時代の負の側面を象徴する人物として、広く知られた人名である。本書は、そのコルテスが時のスペイン国王カルロス1世に送った5通の書簡の邦訳である(第1書簡：1519年7月10日付、第2書簡：1520年10月30日付、第3書簡：1522年5月15日付、第4書簡：1524年10月16日付、第5書簡：1526年9月3日付)。

本書巻末XXV頁の年表と照らし合わせると、1519年2月コルテス一行はキューバを出発してメキシコ探検に向かい、同年11月にアステカの都テノチティトランに到着、1520年末にテノチティトランへの総攻撃を開始され、翌21年8月同地は陥落してアステカは滅亡、その跡にメキシコ市の建設が始まる。コルテス自身、1522年10月にヌエバ・エスパニャ(現在のメキシコを中心とした北・中米のスペイン領の呼称)総督・総司令官に任命されている。このように、本書に掲載された5つの書簡は、スペインによるメキシコ征服の決定的な局面が進行している最中に、その当事者しかも最高責任者の手で書かれたリアルタイムの記録である。記述の内容はコルテス本人の消見、メキシコ探検・征服の過程はもちろんで、コルテスが遭遇したメキシコの地理、動植物、先住民の衣食住、都市、社会、制度と多岐にわたっており、スペイン植民地史、ラテンアメリカ史、またひびく大航海時代を考察するうえで豊富な素材を提供する重要な史料といえる。

このように重要な、かつ多様な豊富な情報を含むコルテスの書簡は、その分、膨大な文字数にのぼる(5通あわせて、今回の邦訳で520頁強)。今回の邦訳では、第2、第3書簡については、第2、第3書簡については「征服者」と新世界(大航海時代叢書)第2期12巻、岩波書店、1980年)に収録された訳という蓄積があったにせよ、この膨大な書簡を全訳し、詳細な脚注と索引(文末XXV頁)を加えた努力は大変なものだったろう。地図や図版も随所に配置され、読者の理解を助けている。あらためて労作に敬意を表したい。

コルテス書簡の詳細については、大部の記述を限られた紙面で語るには無理があるうえ、訳者が要を得た解説を行っている(530-555頁)。ここで評者が予断を与えるより、読者各位は訳者



し、近世の洋書等の補ヒニ加へざるの録書事件であること、エニンの「ロイク田立鋳造所」における鋳造法」を翻訳させて、日本初の製鉄砲を鋳造するための反射炉を築造したのである。かつては「炭都」と呼ばれた北海道の夕張は今日、し、この上下巻を手を各鉱山に実際に訪ねてみたい。そんな関心を喚起される重厚なハンドブックである。(フジフクシヨウ・ライタ)

より大きなスパンの話をするれば、冒頭書いたように、文明を丸ごと滅ぼしたコルテスとピサロは、奴隷貿易とならんで近代世界史の暗部を象徴するような存在であり、今日

「これまでにないミステリーには」

▼死体泥棒 ▼パトリシアの死体と積み荷を発見する

▼メロ 偶然目撃した飛行機が、その中味はなんと大量の爆薬。機内からパイロット コカインだった! 一攫千金

▼「俺」は死人を巻き込ませた。善良で周囲に流石「俺」が標ス死体を

トの死体と積み荷を発見する仲間を捜す。借金を背負う。なんと借金

「俺」は死人を巻き込ませた。善良で周囲に流石「俺」が標ス死体を

ミステリー大賞 第1位

「俺」が標ス死体を

わかるようわからなかつ

▼反安保法制・反原発運動で日本大震災以降、日本はデモ出現シニア左翼とは何か

▼小林哲夫 二〇一二年の東

孫を戦争に行かせたくない!

モヤ二〇一抗議、二〇保護法反対へのカウ、は台湾や香き、去年は行動が全国FALDS特に注目者が書くよの現場に行

「日本にとって」の課題を本

▼日本にとって沖縄とは何か 地の名護市辺野古への移設にして建設し

▼新崎盛暉 翁長雄志沖縄県 反対する。同基地は米軍が沖

知事は民意を受け、普天間基 縄占領で土地を強制的に接収

本全体で考が反対の理由らず政府が「構造的沖縄(返還)は、配下で構造化の沖縄返還

いだ。95年、

